

異常検知・予兆検知 組み込みAIソフトウェア



CX-W

学習と推論を
すべてエッジ処理

CX-Wは、装置の異常検知、予兆検知を実現するための組込用AIソフトウェアです。装置内（Windows/Linux OS上）で動作し、データの学習、推論、診断理由を出力する機能を装置に追加することが可能です。異常データがなくても利用を開始でき、また監視項目の数値と項目間の相関関係を同時に学習して警告の度合いを定量化するため、従来の閾値監視で発見できなかった変化を監視できます。

AIを組み込む



自動学習・推論実行

数値分布、項目間相関を学習



変化を警告指数化

変化量を定量的に確認可能



オンライン状態監視

リアルタイムの推論実行



警告理由を出力

数値、相関異常の項目を出力



軽快なアプリ動作

少ないリソース環境で動作可能



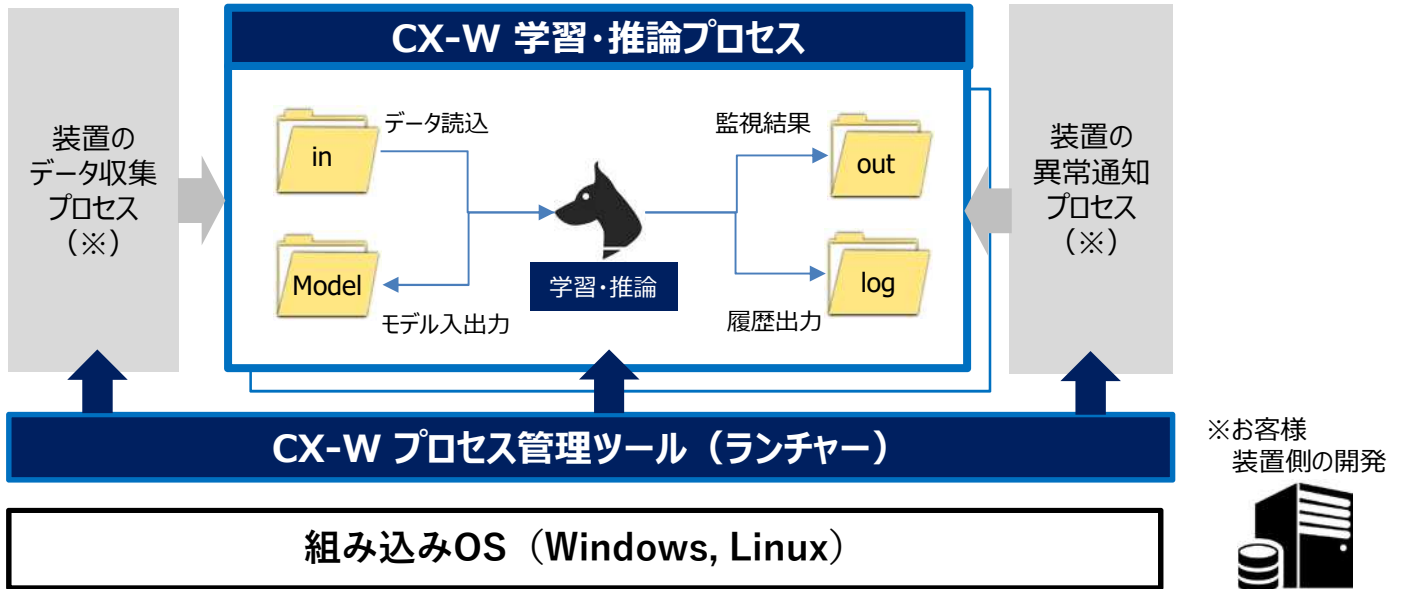
APIで機能制御

自社装置へのSW組込が容易

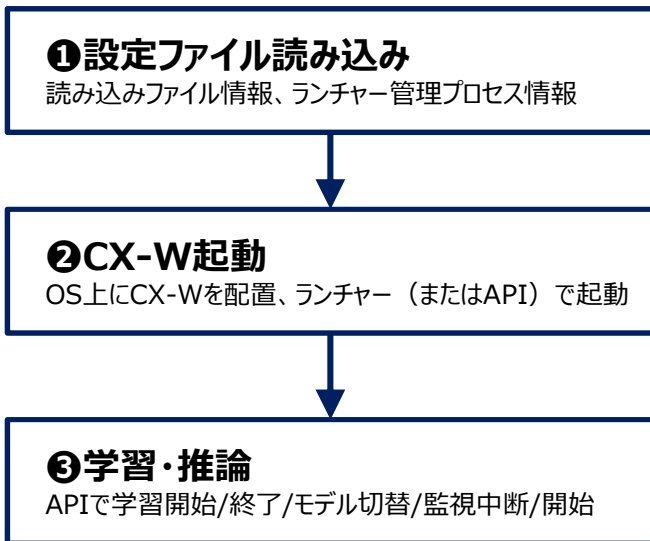
東京エレクトロン デバイス

【組込実装イメージ】

お客様の装置に組み込むことができるCX-Wは、収集されたデータを読み込み、学習・推論を自動で行います。監視結果はファイルに出力され、お客様はこのファイルをもとに結果に応じてメール通知などの処理を組み合わせることが可能です。ランチャーにプロセスを登録することで、API（HTTP）を使ってプロセスごとに任意のタイミングで起動・停止を行うことができます。



【ソフトウェア動作ステップ】



【評価用簡易 GUIツール】

CX-Wには、簡易検証で利用できるGUIツールが用意されています。APIを使った開発・実装前に、本ツールを使って変化検知を検証いただくことが可能です。（一部の機能は、APIでしか利用できません。）



【ソフトウェア動作環境】

対応OS	対応CPU	推奨メモリ	USBポート
Windows (32bit / 64bit) Linux (32bit / 64bit)	x86系、ARM系	2GB以上	1つ以上認証用USB挿入用 ※Embedded契約の場合はUSB不要

本紙に記載された会社名、ロゴ、ブランド名、製品名、サービス名は各社の商標または登録商標です。その他全ての商標および登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。